

ロータリアン—— 奉仕に結束——平和に献身

ROTARIANS——
UNITED IN SERVICE-DEDICATED TO PEACE

1987-'88年度国際ロータリーのテーマ



- 国際ロータリー会長 チャールズ C. ケラー ●第256地区ガバナー 安藤文夫
- 会長——熊倉 昌平 ●幹事——内山 辰策 ●SAA——川又嘉瑞範
- 例会日——毎週水曜日12:30～ ●例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
- 事務局——三条市旭町2-5-10 (TEL 35-3477) (TEL 34-3311)
- クラブ会報委員——加藤紋次郎、平原信行、池田俊一、渡辺喜彦

出席率： 会員 65名中 45名 : 先々週出席率： 89.06% (前年同期 92.31%)

今日のお花： バラ、サラシシダ

ヴィジター： 三条南より 田中康雄君、佐々謹弥君

ゲスト：

- 先週のメイクアップ：
- 6/16 加茂へ 平原信行君
 - 6/16 地区諮問委員会(高崎)へ 山本福七君
 - 6/17 東京小石川へ 渋谷健一君
 - 6/20 三条南へ 渡辺喜彦君、近藤雄介君、鈴木宗資君、
小林九満太君、金子左武郎君、伊藤廣一君、
五十嵐総一君、古沢富雄君、藤村義彦君
 - 6/21 三条北へ 野村竹三郎君、鈴木宗資君、五十嵐晋三君

会長挨拶： 熊倉会長

内山市長さん、お忙しいところおいでを戴きありがとうございます。今年度の社会奉仕活動として裏館児童遊園地に植樹をさせていただきました目録を贈呈します。

ロータリー財団委員長の高橋一夫さんが南クラブと北クラブにも呼びかけて3クラブ共同で19日にガラクタ市をして財団の募金活動をしてくださいました。当クラブの今年度の財団の募金額は100万円を突破しました。高橋さん大変御苦勞様でした。

幹事報告： 内山(辰)幹事

- ネバダ州立大学日本校より
第7回国際青少年プログラム「NICサマーキャンプ」のご案内
出発：8月6日～20日 ネバダ州立大学リノ大学寮滞在
- 前橋ロータリークラブより
第256地区インターアクトクラブ年次大会開催のご案内がとどいております。
- 日本支局財務室より
'88年度上半期（88.7.1～12.31）人頭分担金及びロータリアン誌購読料のお知らせがとどいております。
7月1日以降 1ドル125円
- 会長宛に県展のご案内がとどいております。
- 三条市役所・総務課より 岩田正巳先生、市民葬ご出席お願いがとどいております。
とき 7月7日（木）AM10:00～ ところ 三条厚生福祉会館
- 新潟国道工事事務所より 月刊誌「ほくりく」6月号がとどいております。
- 台湾、鹿港ロータリークラブより 創立6周年記念のご案内がとどいております。

次年度幹事報告： 長谷川次年度幹事

杉野次期会長さんが欠席の為、代って皆様に御報告及びご承認を戴きたい事が二件ございます。

1. 6月15日の新旧理事会で承認を戴きましたが、内山三条市長様に次年度も引続き当クラブの名誉会員になっていただきたくご本人のご了解も得て有りますのでよろしく願い申し上げます。
2. 次年度クラブ会費を半期97,000円から100,000円に変更させて戴きたくお願い申し上げます。後日の予算編成報告で詳細に説明致しますが、年間6,000円のアップになります。
第256地区のガバナ事務所協力金の大幅アップ、国際ロータリーへの拠出金増等の為、部外出費が増えたのでやむをえず変更させて戴きたく、先の新旧理事会で承認をいただきましたが、何卒よろしく願い致します。

委員会報告： 財団委員会

三条、南、北RC合同のガラクタ市を皆様の多くの寄贈品のおかげで無事終了いたしました。広告費などを差引まして三条RCに11万円の配分がありました。ご協力ありがとうございました。

ニコニコBOX ¥17,000



内山裕一名誉会員

渡辺(宏)君 熊倉会長、内山幹事、事実上の最終例会、一年間の奉仕に敬意を表して。

榎本君 親睦委員も今回が最後です。1ヶ年間御協力を感謝申し上げます。

- 古澤君 五十嵐力さんの入会を歓迎して。
- 上木君 安全運転25年間無事故で県警察から表彰を受けました。これを契機に一層の安全運転に心掛け、1人でも多く運転者に呼び掛けたいと思います。
- 加藤君 内山市長様の久方振りの御出席を心よりお迎えします。
- 伊藤君 } この一年間ニコニコボックスにご協力ありがとうございました。
- 佐久間君 } 担当としてお礼申し上げます。
- 熊倉君 } いよいよ任務完了となります。皆さんの好意と友情に感謝します。
- 内山(辰)君 }
- 榎本君 五十嵐力さんの入会を歓迎して。

卓話： 「ある裁判の話」

日戸平太会員

岩佐訴訟は2つの争点をもつ。敦賀原子力発電所内の作業（昭和46年）後、1週間目に生じた岩佐氏の右膝の皮膚症状が①放射線皮膚炎であるか否か。②放射線皮膚炎とすれば作業中の被爆か、である。岩佐氏の阪大附属病院受診は48年、放射線皮膚炎（右膝）の診断を受けた。原発会社を相手に4,500万円の賠償を求めて提訴した。（昭和49年3月）



地方裁判所判決（56年3月）は、「岩佐氏の阪大病院初診以降の患部の症状には、放射線皮膚炎を疑わせるものがあるけれども、右症状の発生時期は確定出来ない。一方発電所内作業環境作業内容に被爆を立証するものは無く、放射線皮膚炎とは認め難い」とした。この第1審の鑑定書は2通。その1つは右膝の古い骨折があることなどから、皮膚症状は血行障害によるとするもの。他は48年の皮膚症状のみからは、これが放射線皮膚炎であるかどうか解らないとするものであった。

岩佐氏は高等裁判所に控訴したが高裁の判決は第1審のそれと同じ理由でこれを却下した。（62年11月20日）

第2審の鑑定書も2通ある。その1つ、48年の皮膚症状を放射線皮膚炎とした鑑定書は46年の被爆を仮定し、その上に客観的証拠のない推測から結論したもので、裁判所はこれを採用していない。第2の鑑定書は、皮膚症状は46年も48年のものも放射線皮膚炎では無く、血行障害による皮膚症状としている。しかし裁判所は、46年と48年の間をつなぐ皮膚症状は岩佐氏本人の陳述のみで客観的事実を欠く事から、これを採用しない。（陳述を採用すれば放射線皮膚炎ではないことになる。）血行障害性皮膚炎については、これとはにわかには断じ難いとしている。その根拠は骨折などの無い人に発生するこの種の皮膚炎の典型、固定型との相違に求められている。現在、この裁判は最高裁の判決を待っている。

皮膚はある量以上の放射能に被爆して、始めて皮膚特有の反応を示す。皮膚症状惹起量の被

爆を否定する判決であるならば、「放射線皮膚炎を疑うものがある」の「疑う」は、単に「似る」点かと解すべきであろう。「因果関係の壁厚く」や、「被爆救済、司法にも課題」、「国立大学の放射線皮膚炎の診断書でも敗訴した……」「裁判長は放射線皮膚炎を疑わすものがあると判断した。しかし……」等々の翌日の各新聞の表現は、この「疑い」が限り無くクロに近いものとして読者にうつる。即ち、皮膚症状は放射線皮膚炎であるかの如く、そして原発内は常に汚染に満ちているかの如くである。

毎日は「放射線皮膚炎」と「血行障害の静脈炎」との鑑定書が提出され、口頭弁論で論争があったと報じている。朝日には「放射線皮膚炎」のみ、他の原因による皮膚炎が討論された事に全く言及は無いのである。サンケイには少なくとも双方の鑑定書が提出されて、医学論争があった事を記事にしている。朝日は意図的な記事を書くのだろうか、あるいは単に不勉強なのだろうか。ジャーナリストの最大の義務は事実の裏づけとフォローアップにあると思うのだが。

私は第2審の鑑定人として、この裁判に関係したが、学問的論争の詳細は別として、「報道の真実性」について改めて考えさせられるものがあった。いかなる大新聞であろうとも、報道記事については、決して、これを丸のみには出来ないものであると、実感した次第である。

会員家族紹介： 岩井数央会員



わが家は母、妻、長男、長女、それに私の5人家族であった。

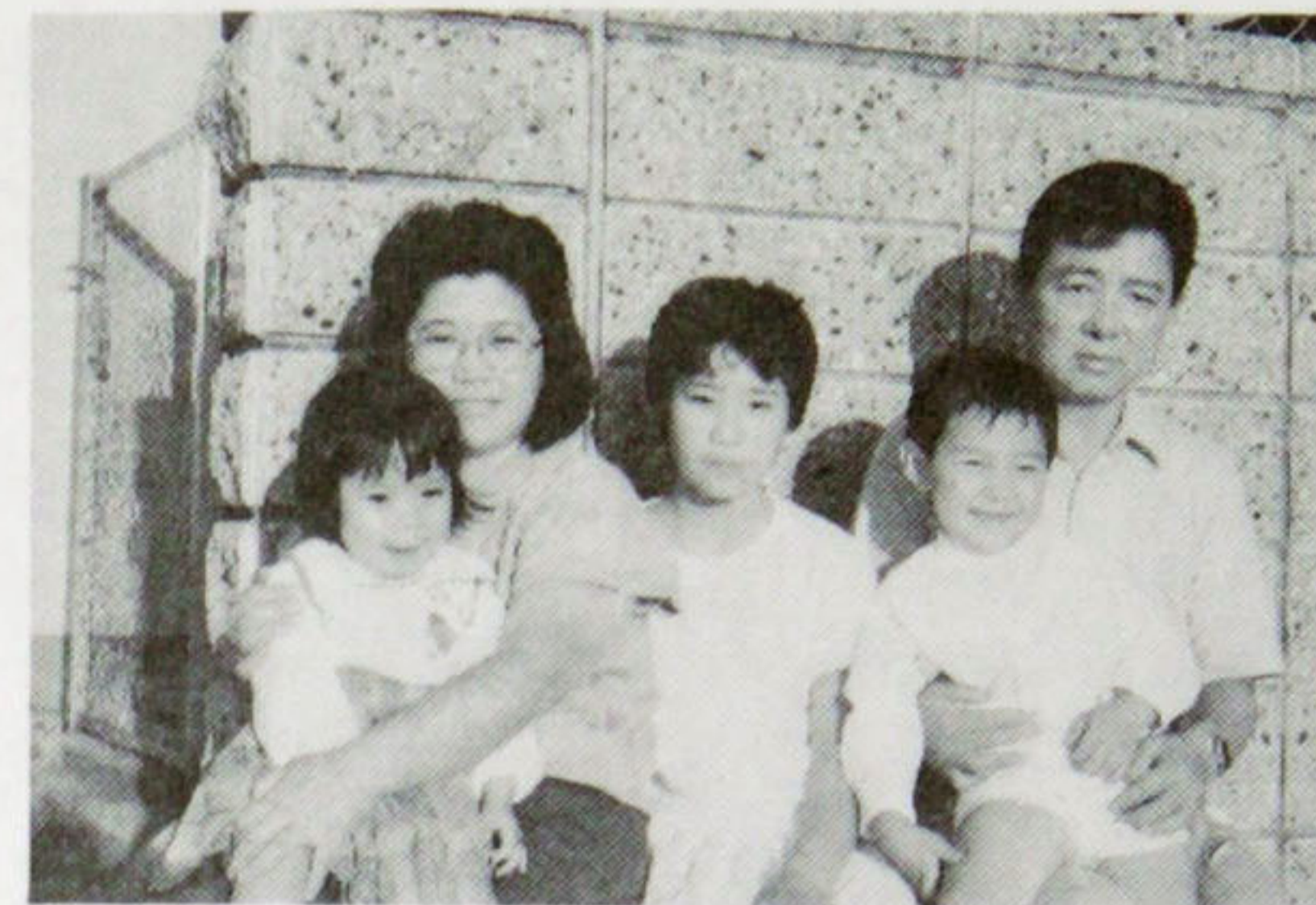
所が世の中、先は分からないもので、妻の昌子は昨年54歳で世を去り、丈夫だ丈夫だと自他共に許していた母は、今86歳の身を、ギランバレー症候群という千人又は万人に1人と云われる奇病に取りつかれ、闘病生活1年半。漸く上半身のみ何とか神経機能が回復してきたが、人様のお世話になり乍ら入院中である。しかし驚くべきことはボケの症候は全くなく、記憶力も判断力も抜群である。

る。

長男博(27歳)は、ソニー本社でコンピュータの仕事をしているが、仕事柄殆んどわが家には帰ってこない。

長女の美子(32歳)は今もって独身生活を楽しみ乍らエレクトーン教師として頑張っている。今、考えてみると子供の小さい時がファミリーとしては一番幸せな時であったと思う。しかし、子供に対しては仕事第一ということで、親らしいサービスは余りしてやれなかった事が悔まれてならない。

会員家族紹介： 藤村義彦会員



家族全員がそろった写真が無かったので、この紹介にあわせて社宅の前で撮ったのがこの写真です。

我が家は夫婦と子供3人の5人暮らしです。

女房は専業主婦で、三食昼寝つきの生活がたたり重さが増すばかりなので、気休めに、市の奥様バレー教室や何とか体操に参加し、減量を試みております。

上の娘は四日町小6年ですが、電力会社員の親を持つ宿命で、私の転勤にあわせて今の小学校が4度目となり、大変な苦勞を強いております。

長男はルーテル幼稚園年中組で、腕白ざかり。

下の娘は2歳半ですが、大変きかなく、将来が心配です。

私は社宅の庭で、見よう見まねの野菜づくりで休日を過ごしております。

事業所紹介： 佐久間洋一会員

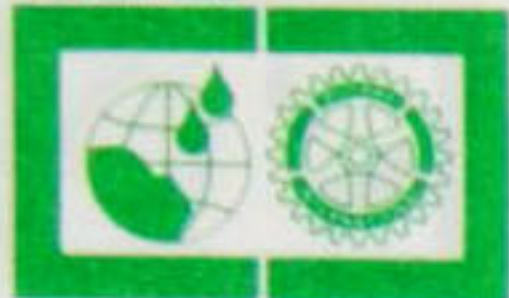
第四銀行三条支店、職員数60名弱、男女比率3対2で平均年齢34歳弱(男女別は略)。

昨年支店開設60周年を迎えました。*良い評判、づくりにと、現在「さわやかサービス運動」を展開し職員一同努力中です。

三条支店へは、20年振り、2度目の勤務ですが、30年余におよぶ銀行生活で県内勤務は、新潟市内以外は三条のみで奇縁を感じております。

以前に比べ、安く飲める店でも美味しい魚が喰べられる、とも感じております。





一フォート・トピックス一

社会奉仕の一環として、街に緑を、三条市西裏館の児童公園に植樹



▲内山市長に目録贈呈

▶黒松、ケヤキ、ヤマモミジ他21本の植樹された児童公園



次週例会 6月29日 会長、幹事慰労会

次々週例会 7月6日 卓話「雑感」 杉野会長